別記様式（第５条関係）

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td>令和５年度　第１回福津市行政評価委員会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td>令和５年８月１７日(木)　　午後６時３０分から
午後８時３０分まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>市役所本館２階庁議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">委員名</td><td>（１）出席委員
加留部貴行、橋内京子、木本圭子、芹野千佳子、中川孝晃、山下永子
（２）欠席委員
近藤春生</td></tr>
<tr><td colspan="2">所管課職員職氏名</td><td>福津市長　原﨑智仁
経営企画部経営戦略課長　向井泰博
経営企画部経営戦略課経営戦略係長　山本素子
経営企画部経営戦略課経営戦略係　首藤春風</td></tr>
<tr><td rowspan="6">会議</td><td>議 題
（内　　容）</td><td>・諮問
・委嘱状交付
・評価スケジュールと進め方について
・評価対象事業の検討</td></tr>
<tr><td>公開・非公開の別</td><td>■公開　□非公開　□一部公開</td></tr>
<tr><td>非公開の理由</td><td></td></tr>
<tr><td>傍聴者の数</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>資料の名称</td><td>・次第
・委員一覧
・福津市行政評価委員会規則
・評価スケジュールと進め方
・第３次福津市行財政改革大綱実施計画　取組結果【抜粋版】
・令和４年度主要施策成果報告書（事務事業評価）【抜粋版】
・福津市まちづくり計画「まちづくり基本構想」
・福津市第３次行財政改革大綱・実施計画</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">会議録の作成方針</td><td>□録音テープを使用した全文記録</td></tr>
<tr><td>■録音テープを使用した要点記録</td></tr>
<tr><td>□要点記録</td></tr>
<tr><td>記録内容の確認方法</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他の必要事項</td><td></td></tr>
</table>

審議内容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

第１回行政評価委員会　会議録

次第

１．　市長あいさつ
２．　辞令交付
３．　委員自己紹介
４．　会長・副会長の選任
５．　会長あいさつ
６．　委員会の公開可否について
７．　諮問
８．　事務局紹介
９．　行政評価委員会規則の説明
１０．　まちづくり基本構想・第３次行財政改革大綱について説明
１１．　評価スケジュールと進め方
１２．　評価対象事業の検討

１．　市長あいさつ

原﨑市長：
行政評価に関して、今までは庁内での内部評価を中心に行っていたが、市内在住の方や市外の有識者に客観的に外部評価をしていただくことが欠かせないと認識している。
今回参加いただく委員の皆様はこれまでも様々な分野で市政運営にご協力いただいている。
まちづくりは市民の皆様と対話によって進めていくものと考えているため、本委員会においても市民、有識者の立場から積極的に忌憚のない意見をいただきたい。
何卒よろしくお願い申し上げる。

２．　辞令交付

事務局：
七名の委員のうち過半数の六名が出席しているため、福津市行政評価委員会規則第６条２項の規定により本日の委員会は成立する。

３．　委員自己紹介

４．　会長・副会長の選任

事務局説明
行政評価委員会規則第５条に基づいて、会長及び副会長は互選により選出することを説明。

事務局：
会長についてどなたかいらっしゃるか。
事務局案として加留部委員にお願いをしたい。

加留部委員はこれまで行政評価委員会会長、行財政改革審議会会長などのご経験がある。
如何か。

委員全員：
賛成。

事務局：
副会長についてどなたかいらっしゃるか。
事務局案として橋内委員にお願いしたい。
橋内委員はこれまで行政評価委員会委員のご経験があり、現在はつやざきアンビシャス広場の会長をされている。
如何か。

委員全員：
賛成。

事務局：
ここからは会長に進行をお願いしたい。

５．会長あいさつ
会長：
９年前の行政評価委員会時と比べて時代は変わり、テーマも変化し多岐にわたっている。委員の知見や日頃の暮らしの中での思いを対話の形で出し合い、よりよい方向に示唆していきたい。

６．　委員会の公開可否について
事務局説明
福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第２条に基づいて説明。

会長：
原則公開となっているがよろしいか。

委員全員：
賛成。

傍聴者が三名入室。

７．　諮問

８．　事務局紹介

９．　行政評価委員会規則の説明
事務局説明
福津市行政評価委員会規則について、資料に沿って説明。

１０．まちづくり基本構想・第３次行財政改革大綱について説明

事務局説明
福津市まちづくり計画「まちづくり基本構想」、第３次行財政改革大綱について、資料に沿って説明。

会長：
委員のみなさんから感想等をいただきたい。

委員：
第３次行財政改革大綱について、直接審議にかかわってはいないが施設の利用者の意見を聞く機会があった。行財政集中改革プランの審議会に自身が参加した。その間行政評価委員会の行われない時期があったが、行財政集中改革プランについて見直されることがなく、市の状況変化などにより答申書で出したものと異なる動きが多く見えた。今回は実施につなげていきたい。
市に財源がないことは前提としてあるが、ないからどうするのかという道筋や方向性を見つけていきたい。

委員：
第３次行財政改革大綱に参加した。素案はなぜその事業を行うのかという理由と事業の内容が結びつかず、結果ありきの内容が多かったため、内容を見直した。縦割りが目立つため、このような機会に横串を通し新たな切り口で解決をしていきたい。

委員：
自身に接点のない政策や財政について初めて認識した。経緯はわからないが第１次と第２次の財政効果の金額のギャップが大きく、第３次はどの程度なのかと疑問に感じた。金額の視点とどうあるべきかという視点と両方で関わっていきたい。

委員：
以前の行政評価委員会の頃とは市の状況が変わっていることに驚いている。人口が増えているため財源は増えていると思っていたが、実際は足りていないというのがよくわからない。また、その中で削減や廃止が増えているが、人口増加で文化施設を使う人が増えると考えられる中での施設削減や高齢者が増加している中でのバスの削減となっているのが残念であり、本当に住みたい街になっているのか疑問。なぜ財源が足りないのかということを市民は理解できているのか、説明が大事と考える。

委員：
創造的に違うやり方を実施することが必要と当時も今も感じる。各自治体が様々な工夫をしている中で、福津市は市民と一緒に創造するというエンジンがかかっていない。この委員会の中で創造的な話し合いをしたいと考える。

会長：
第３次改革大綱に関わった。答申では大綱の中身で言い表せない行間の中で、本筋として逃してはいけないものを付帯意見として記載した。特に⑤にもあるように最終的に実施する主体として職員の力は大きく、福津市役所と

いう組織が健全である必要がある。行革による職員の減少、病休等で実質的には稼働していない実態もしばしば見られる反面、やらなければならないことは増加している。そのような中で行財政改革を進めるためには住民の力、多様な力を借りながら行うことが必要である。
本委員会では担当課の職員と背景や思いなども共有していきたい。行間の部分を逃さないようにしたい。
その他、確認したい部分はあるか。

事務局：
事務局の方から、質問と思われる部分をお答えする。
委員からお尋ねのあった第３次行財政改革の目標削減額は令和３度の時点で令和３年度から令和７年度にかけて 262,691 千円を削減する計画を立てている。ただしあくまで策定時点での計画であり、計画通りに進んでいないものもあるため、結果は目標の削減額と異なるかもしれない。
また、委員からお尋ねのあった人口が増加しているのに財源が足りない要因として、国からの交付税が急激な人口増加に比べて増額しないということがあげられる。交付税は国勢調査（5 年に１度）をもとに算出しているため、５年の間に人口が増加するとその分は算定されず財政が苦しくなる。直近では令和２年度に国勢調査が行われ、令和３年度にその数字が反映された。今後は更なる人口増加ややがて来る人口減少、公共施設の老朽化等により財政が苦しくなることが予想される。
また、生産年齢人口が少なく、年少人口、高齢人口が多いことで社会保障費がかかるため財政が圧迫されている。
加えて急激な子育て世代の増加に対して、学校などのハード整備を進めている事も一因と思われる。

委員：
財源がない中で、廃止や削減をしても足りないのならば稼ぐ必要がある。ふるさと納税などの取り組みは積極的に行われていると聞いているが、現状税収以外の自走のための取り組みはどの程度行われているのか。

事務局：
ふるさと納税は年間 6 億円ほどの実績がある。近隣市町と比較して同程度と思われるが、現在手元に資料がないため、次回改めて回答する。
その他取り組みとしては、企業版ふるさと納税を利用して数件寄付をいただいている。行財政改革の中でもうまくいっている取り組みである。令和３年度は 400 万円、令和４年度は 210 万円の寄付をいただいた。

会長：
10 年前に比べて、多様な財源が出てきた。今後は税だけに頼る形ではなくなるだろう。

１１．評価スケジュールと進め方
事務局説明

評価のスケジュールと対象について、第３次行財政改革大綱から五つのテーマを取り上げること、事務事業評価のうち事務局の挙げる四つの候補から一つのテーマを選択して取り上げることを資料に沿って説明。

会長：
この委員会は事業仕分けの場ではなく、最終的な決定は議会や執行部が行うということを踏まえたうえで、事業の方向性の示唆を行う。担当課の意向も聞きつつ、良いことは良い、良くないことに対しては良くないと示すようなメリハリの効いた対話型で進めていきたい。私たちからの最も重要なアウトプットは事業に対するコメントである。毎回の中で評価対象事業に対する委員のみなさまからの意向を伺い、その場でおおまかな取りまとめを行ったうえで、最終回で取りまとめるように考えている。
進め方やスケジュールについて何か確認事項はあるか。

委員：
事務事業評価から候補の四つを取り出した基準などはあるか。

事務局：
基本構想の七つのテーマ別将来像のうち１（共育）、３（健康）、４（安心安全）、５（環境）からそれぞれ選んでいる。
２（地域自治）については別の審議会が行われており、そちらと並行することで意見の相違や混乱が生まれることなどに考慮して外している。６（地域産業）、７（観光）については先日地方創生効果検証会議で検討したため、タイミング的にそぐわないと考え外している。

会長：
本来は全体から選んでいきたいが、今年度は時間が限られているため、この形で進めてよいか。

委員全員：
賛成。

１２．評価対象事業の検討
会長：
第４回の後半で検討する事業を選択したい。

委員：
児童センター事業を取り上げたい。位置的に中央公民館に近く中央公民館の再定義を検討する際に関係すると考えられる。また、今後年少人口の減少を懸念する中、高校卒業後の流出を食い止めるために、大学生のリーダーシップ・シティズンシップ教育のような担い手養成の場を設けるなど、様々な可能性が考えられるため、中央公民館と連動して考えると良いのではないかと思う。小中高生の利用が少ないとのことなので、新たな事業として考えるとよいのではないかと思う。

委員：

高齢者に関わる事業を取り上げたい。
すまいるパワーアップ事業に関しては移動手段が限られる高齢者にとって、コミュニティバスの便数が少なく、どうやって参加するのかといった問題がある。

委員：
防災に関する事業を取り上げたい。防災をきっかけに自治会に加入するなどあらたな繋がりが生まれる可能性もある。

委員：
防災に関する事業を取り上げたい。劇的な気候変動の現状や消防団の維持など不安がある。また防災に関しては高齢者や子供の問題も含まれ、検討の必要があると考える。

委員：
児童センター事業を取り上げたい。候補の中で児童センター事業、消防団事業が決算額が大きい。お金だけの問題ではないが見直せる部分は見直す必要がある。
児童センターは現状として活用があまりされていないと考えている。大人が入れないということで、はじめから子供を連れて行かないという意見もある。子供による自主運営という良さもあるが方法を考える必要がある。

会長：
他の方の意見を聞いて何か意見はあるか。

委員：
児童センターについて大人が入れないということだが、自主運営の前に訓練等が必要なのではないかと思う。

委員：
児童センターについては、子供だけしか入館ができないため見学をしたことがなく、自分の活動では関われていない。

委員：
郷育カレッジの講座で入館したことがあるが、素晴らしい施設である。子供たちによる積極的な取り組みが行われているが、後輩の育成までは手が回らないことが多く、児童生徒が卒業により入れ替わることでうまくいかなくなることが多々あるようだ。
子育て施設に関しては、エンゼルスポットなども廃止されてしまったため、より児童センターの活用を図るべきだと思われる。

委員：
児童センター事業と防災事業の両方を取り上げる方が良いのではないか。児童センター事業については、中央公民館と重複する部分もあると思われるので、合わせて考えてもよいのではないか。

消防団については、報酬に関すること等をお聞きしたい。また、高齢者の避難なども不安である。

委員：
日中は地域に子供と高齢者しか残っていない。そのような中でどうするべきかという問題もあるのではないか。
どちらも重要であるため時間をかけて検討する必要がある。

委員：
変わらず防災を取り上げたいと考えている。
未来共創センターの行う BA-School にも参加しており、地域にかかわっている方も多くいるが、防災についてはなかなか取り上げられることがないため、このような場で取り上げたい。

会長：
行財政改革大綱の中でハード面が多く取り上げられており、児童センター事業は同様のハード面として重複する部分があるので、今回は防災の方が視点も変わってよいのではないか。来年度の目玉として児童センター事業を取り上げてはどうか。

委員全員：
賛成。

会長：
それでは今年度の４回目としては防災を取り上げる。
気になることや必要な資料等については早く分かれば準備ができると思うため、ご連絡いただきたい。
これで第１回行政評価委員会を閉会する。